



就任の御挨拶

財団法人 中国四国酪農大専校

校長 花田 時 太

この度五月一日附をもちまして、中国四国酪農大専校に御厄介になることになりました。私は永年郷土を離れて農林省畜産試験場に勤務致しておりました関係上、誠に不承不承な次第ですが、県内畜産事情につきましてはその知識は極めて乏しく、目下鋭意勉強に努めてはおりますが今後機会ある毎に関係各位の御教示を仰がなくてはなりませんので、よろしくお願い申し上げます。

さて日本農業の再編に当りまして、その飛躍的進展を計るためには、色々な条件が満たされなければなりません。中でも一番重要な問題はこれを担当する人間の養成であり、人作りこそ我国農業再建の推進力であると考えます。

従来この問題については、各方面でいろいろな機関において行われて参ったわけでありますが、折角人間は養成されながらも、それらの者が次々と他産業に吸収され、離農して行くケースが非常に多く、またたとえそれが農村に留つても、その活躍する場を得られないままに、旧態依

然たる農業経営の中に埋もれている例が余りにも多く見られるところであり、その原因は一口に言えば、日本農業の乏しさにつきるかと思えますが、こゝにおいて我国農業の再編成、近代化が要請される所以でありましょう。

即ち農民が真に土を愛し、家畜を友として安定した生産活動が続けられるような、魅力をもった農業が産み出されなくてはならないと思えます。

このような意味において、わが酪農大専校の存在意義は極めて大きく、近代酪農における後継者育成という重大使命を痛感致すわけでございますが、何分にもその道において未熟な私が、よくその重責を果し得るかどうかが甚だ危惧の念に堪えないところでございます。

どうか関係各位、諸先輩におかれましては一層の御指導御鞭撻を賜りますよう、切に御願ひ申上げる次第でございます。

元来人間養成という教育事業には多額の経費を必要と致しますが、幸

い当大専校は各方面の御援助によりまして既に一応の基盤が設定され、着々とその成果を挙げております。然しながら、財団法人として発足後なお日も浅く、特にその経営面において軌道に乗り得ない点もございまして、財政的には種々窮屈な運営を余儀なくされている次第でございます。この問題につきましては更に十分検討の上、改善すべき点は早急に改善し、一日も早く健全な運営ができるよう最善の努力を致したいと考えて居りますので、今後とも関係各方面の一層の御理解と御支援を御願ひ致す次第でございます。

就任に当りましていろいろ御願ひを兼ね一言御挨拶申し上げます。

新しい有機質肥料

基準成分

窒素3.0 磷酸3.0 加里1.5

サンケイユーキ

鶏糞処理剤

軟便の処理に！

悪臭を除き

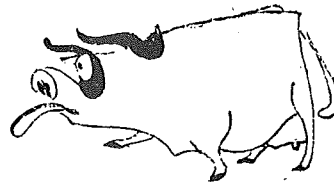
ウジを殺す！

ドライエース

配給・農協経済連

製造・神島化学 サンケイユーキ

コーエン
錠塩



ミンテスB

ニクケンス

カンマルパスタ



製造発売元 日本全業工業株式会社 郡山市昭和1丁目
岡山支店
津山市坪井町34 TEL (津山) 3026

牛の繁殖障害の防除に活躍する 武田の動物薬品



新低受胎牛治療剤……………動物用

ウルセリン

新子宮内膜炎治療剤……………動物用

プレナG

合成樹脂製注入器……………動物用

子宮内薬液注入器

武田薬品工業株式会社食品事業部・畜産部

大阪市場における畜産物の動きと今後の見通し

岡山県大阪経済事務所

岡山県大阪経済事務所では、大阪市場での畜産物の動きはどうなっているかを調査し、比較検討を行ない、見通しについても検討を試みた。以下にその概略を掲載してみる。

鶏卵

昭和四十一年の大阪市場への出荷状況を見ると、岡山鶏卵は全販連大阪支所では四八七三七(占有率五、六四%)で、香川、大阪に続いて三位、大阪鶏卵では一一六六七(同七、七二%)で七位であった。これは昭和三十九年に全販連で一位、大阪鶏卵で二位であったのに比べ、岡山鶏卵の地位が著しく低下してきたことをものごとがたつてきている。

食鶏

大阪の小売業者の店舗は約一千軒と見られ、これで現在の総入荷量一日一〇万羽が販売、消費されている(推定)。出荷量から見ると、徳島、和歌山、兵庫の順である。岡山の食鶏は、産地高の傾向が強いが、最近では月平均二、三千羽が岡山に逆入荷していると思われるが、他県では企業化により、コストを下げて大量生産を行ない、積極的に販路開拓に乗り出していることを考えると、岡山は生産量でありながら、かなり遅れをとつていく感がある。今後の見通しは、夏期の需要好転の見

牛肉

和牛の生産頭数は、その減少傾向が最近漸く鈍化してきたとはいえ、一朝一夕には増産できないため、牛肉は高いという印象が一般消費者へ浸透し、消費も大きく減退しているが、絶対量の不足から輸入肉に頼らざるを得ない状況では、相場も現況が続くと見られる。大阪市場への出荷量も毎年二万頭から四万頭と大巾な減少を見せている。岡山ものは三十九年には五五〇頭で一四位、四十一年には二七〇頭で二一位であった。

豚肉

昨午三月、畜産物価格安定法により畜産事業団が豚の買上げを始めてからは、生産は増加の一途をたどり、事業団の買上げも七四万頭に達した。大阪市場への総出荷量も四十一年には三十九年の倍の頭数となつてきている。岡山豚の占有率は四、四四%で、五位を占めている。しかし、市場への出回りが多いが、格付けがきびしくなつてきているので、今後品種改良などを積極的に進め、量より質に重点をおいて飼養管理の改善を図る必要がある。

七月号目次

就任の御挨拶	花田時太	1
夏季の受胎状況		4
イタリアン跡地の水稲管理	栗山光春	10
◇鶏試		6
夏季の鶏飼養管理		6
◇和試		8
暑さに向つての飼養管理		8
試験場だより		2
大阪市場での畜産物の動き		2
ニュース		3
家畜衛生週間について		5
牛の流感を予防しましょう		11
農林統計速報より		12
乳牛の健康管理		14
福集室から		16

ニュース

岡山県養豚振興協会総会開催

五月三十一日林業品階上で開催、質疑応答が熱心に行なわれ、岡山県養豚の縮図の感があり、数多くの問題点が出されたが、次の三点がその主たるものであった。第一は豚肉消費拡大運動であるが、この運動の根底には多くの問題をもつてゐる。第二は県営食肉市場の荷受改善の問題。第三は養豚試験場の独立と原々種豚基地の確立の問題であったが、いづれにしても養豚については後進県であるだけに今後幾多のあい路を打開しなければならぬと考えられるが、岡崎会長、永礼副会長と共に養豚家の皆さんの自主的な組織活動を折る。

岡山県家畜人工授精師協会総会開催

岡山県家畜人工授精師協会(会長惣津律士、会員一五五人)の四二年度総会は六月一四日、岡山市紙屋町の林業品ビルで開かれ、優良会員の表彰、四二年度事業計画、収支予算、家畜人工授精料金の

- 改正等を決定した。
- 総会終了後農林省畜産試験場繁殖第二研究室長楢垣繁光氏の「乳牛の繁殖、泌乳、発育について」の特別講演があった。優良表彰者名は次のとおりである。
- 赤木隆志(灘崎町)、千田宏(倉敷市)、嶋谷省三(井原市)、北川一夫(北房町)、清水益男(哲多町)、日笠免治(鏡野町)
- (一) 事業計画の主なるものは
- (1) 家畜人工授精組織の強化対策
- (2) 技術研修会、講習会の開催
- (3) 家畜人工授精の実態調査
- 等であるが、特に組織の強化と末端業務の円滑な推進に力を入れることになつた。
- (二) 家畜人工授精料金の改正
- (1) 精液料(一回分の精液(稀釈液を含む)一cc分又は一ストロー分)
- ホルスタイン 三五〇円
- ジャージー 三〇〇円
- 肉用牛 三〇〇円
- 豚(一〇〇cc) 八〇〇円
- めん羊、山羊 一〇〇〇円
- (2) 注入技術料
- (イ) 毎回料金
- 一頭一回注入については、但し精液料、出張料は別に徴収する。
- 牛、豚 七〇〇円
- めん羊、山羊 三〇〇円
- (ロ) 回数別料金
- 初回は注入技術料の金額を徴収

- する。但し精液料、出張料は別途徴収する。二回以降は精液料、出張料のみを徴収する。
- 乳用牛 一、四〇〇円
- 肉用牛 一、〇五〇円
- 豚 一、〇五〇円
- めん羊、山羊 四五〇円
- (3) 出張料
- 一件一回出張について、但し二戸二頭以上授精した場合は一件とみなす。
- (4) 発情鑑定料
- 産検査による鑑定をいう。但し精液を注入した場合および出張料は徴収しない。
- 牛、豚 三〇〇円
- (5) その他
- 特に畜主の依頼により取寄せた精液については、以上の他に実費を徴収する。本料金の改正は昭和四二年七月一日から実施する。

蒜山の二青年ニュージールランドへ留学

中国四国酪農大学の卒業生である菊地俊六、長恒健二の二君は、真庭ライオンズクラブと岡山ライオンズクラブの骨折で、ニュージールランドへ留学し、半年間マナワツ地方の牧場で、本場の酪農技術を実習するため、七月二日、神戸より渡航した。これは、三十九年九月に加藤

高梁で酪農近代化展と講演大会

高梁地区酪農振興協議会では、五月二十六日、四二年度の総会を開いたが、本年があたかも同地区が昭和三十九年九月二十三日備中集約酪農地域指定を受けてから満一〇周年に当ることから、これを記念して、酪農近代化展と講演大会を九月二十三日、指定記念日に高梁市民会館大ホールで開催し、酪農民の意気を高揚し、併せて酪農振興ムードの醸成とその近代化の推進を図る。

1. 酪農近代化展

集約酪農の歩み

将来の酪農のすがた

牧野造成とその利用

牧草の展示とその栽培利用

酪農用機械、器具、器材の展示

乳製品、飼料、薬品等の展示

講演大会

表彰

酪農功労者、優秀酪農家の表彰

牛乳の消費宣伝

高梁市中パレード

第2回岡山県家畜衛生週間

家畜の衛生環境は万全ですか！

- 主催＝岡山県・社団法人岡山県畜産会
 後援＝県酪農農業協同組合連合会・県経済農業協同組合連合会・県農業共済組合連合会・県獣医師会・全国和牛登録協会岡山県支部・県農業信用基金協会・県家畜商業協同組合連合会・社団法人岡山県畜産公社・県養鶏協会・県ふ卵振興会・県養豚振興協会・県家畜人工授精師協会・県草地協会・県酪農振興協議会
 協賛＝NHK岡山放送局・山陽放送KK・山陽新聞社・夕刊新聞社・岡山県製酪協会 他 関係業者

夏季受胎状況の実態

調査成績まとめ

従来から夏季の高湿多湿が家畜の繁殖力に悪影響を及ぼし、その結果受胎率が低下することが報告されているが、岡山県下においても、毎年夏季に受胎率が低下することが知られているので、その実態を把握し、今後の対策樹立の一方途とするため、県は岡山県家畜人工授精師協会に委託して、昭和四十一年八月中に人工授精を行った乳用牛五一八頭、肉用牛五一四頭、計一〇三二頭についてその

受胎状況を調査して、八月中に人工授精を行った牛につき十一月までその結果を追跡して、結果を見たもので、その概要は次のとおりである。

(1) 調査牛の平均年齢は、乳用牛三・八才、肉用牛五・一八才で、分娩回数は乳用牛三・九産、肉用牛三・一産であった。乳用牛では六才以上、七産以上の牛は数が少なく、耐用年数が短かく、早期廃用の傾向があるので、この原因究明が必

要であると共に、飼養管理等を改善して、耐用年限の延長を図る必要がある。

(2) 授精回数は乳用牛一・九回、肉用牛一・三回で、いづれも全国平均を上廻っており、良好な成績と思われる。

(3) 分娩後の初回発情の発見は、乳用牛五・九日で早期発見が行われているが、肉用牛では七・二・九日でもややくれており、中でも一〇日以上を要したものが一六%にあたる五六頭となっているが、これ等は飼育農家の牛の観察の不足あるいは飼養管理等の問題が考えられるので、今後農家の指導が大切である。

(4) 発情周期及び発情持続時間では、一部の牛を除いては大体標準に近かったが、乳用牛では肉用牛に比し発情持続時間は平均一〇時間近く長く、特に乳用牛の授

精適期の判定にあたっては細心の注意と正確な検査が必要と思われる。

(5) 分娩後の発情の状況では、乳用牛一五%、肉用牛一%が異常として指摘されており、これ等が低受胎率ひいては繁殖障害牛と関連しているものと思われる。

(6) 授精の時期では、発情開始より授精までの時間並びに授精後発情終了までの時間等の関係を見ると、大体適期に近い時間に授精したものが多く、各家畜人工授精師が各自の自覚と技術において適期授精に努力されたことが伺われる。但し中には授精後発情終了までに長時間を要した牛が見受けられ、特に発情持続時間の長い牛の授精適期の判定には十分注意を払う必要がある。

(7) 注入の方法は約八五%が直腸法を採用しており、注入部位も乳用牛六六・七%、肉用牛八一%が子宮内に注入されており、深部注入が全般的に普及されていることを示している。

(8) 精液保存日数では、殆どどの精液は採取日から五日までの間に使用されており、極力新しい精液の利用に心がけられておる。

(9) 受胎成績では乳用牛五四・六%、肉用牛で六三・八%の牛が一回で受胎しており、良好な成績とはいえないが、本調査の夏季の悪条件下において授精したものと見比べると、まずまずの成績といえる。今後夏季の受胎率低下に対する対策を十分検討する必要がある。

(1) 調査牛の年齢別構成

種類	区分	年齢										計	不明	平均
		2才未満	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才以上				
乳用牛	件数	57	30	21	22	9	7	5	2	4	157	361	才	3.82
	%	36.3	19.1	13.4	14.0	5.7	4.5	3.2	1.3	2.5	100			
肉用牛	件数	41	5	52	8	15	21	11	6	9	157	357	才	5.18
	%	2.44	3.0	31.0	4.8	8.9	12.5	6.5	3.6	5.3	100			

(2) 産歴

種類	区分	産歴										計	不明	平均		
		未経産	1産	2産	3産	4産	5産	6産	7産	8産	9産				10産以上	
乳用牛	件数	130	74	91	70	48	42	15	7	4	2	2	485	33	産	3.9
	%	26.8	15.3	18.8	14.4	9.9	8.7	3.1	1.4	0.8	0.4	0.4	100			
肉用牛	件数	76	47	70	78	61	45	62	13	5	1	2	460	54	産	3.1
	%	1.65	1.02	15.2	17	13.3	9.8	13.5	2.8	1.1	0.2	0.4	100			

(3) 最終分娩の種付回数

種類	区分	回数					計	未経産	不明	平均
		1回	2回	3回	4回以上					
乳用牛	件数	118	85	35	30	268	130	120	回	1.9
	%	4.40	3.18	1.30	1.12	100				
肉用牛	件数	106	26	5	2	139	76	299	回	1.3
	%	7.63	1.87	0.36	0.14	100				

(4) 分娩後の初回発情

種類	区分	日数							計	未経産	不明	平均	
		40日以内	40～60	61～80	81～100	101～150	151～200	200以上					
乳用牛	件数	123	125	58	25	13	1	0	345	130	43	日	5.59
	%	35.6	36.2	16.8	7.3	3.8	0.3	0	100				
肉用牛	件数	62	97	89	40	32	10	14	344	76	94	日	7.29
	%	1.80	2.82	2.59	1.16	0.93	0.29	0.41	100				

(5) 分娩後の種付回数

種類	区分	回数						計	未経産	不明	平均
		初回	2回	3回	4回	5回	6回以上				
乳用牛	件数	227	114	37	18	7	4	407	111		1.7回
	%	55.7	28.0	9.1	4.4	1.7	1.0	100			
肉用牛	件数	423	10	10	10	0	0	456	58		1.1回
	%	93.4	2.2	2.2	2.2	0	0	100			

(6) 受胎成績

種類	区分	受胎			計
		受胎	不受胎	胚否不明	
乳用牛	件数	283	202	33	518
	%	54.6	39	6.4	100
肉用牛	件数	328	117	69	514
	%	63.8	22.8	13.4	100

家畜を飼養している者にとつて一番の脅威は、畜産物価格の暴落と、伝染病の蔓延です。

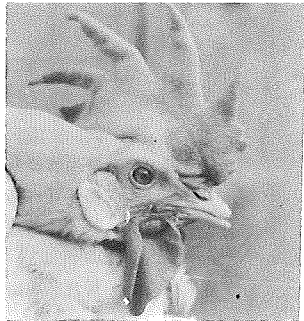
この恐ろしいものの旗頭の一つである豚コレラ、ニューカッスル病などの病気が岡山県下にも侵入して関係者の心胆を寒むがらせ、大きな損害を蒙つてしまいました。これというのものも、家畜衛生に対する考え方が一般的にまだ低いからでしょう。患って泣くより笑顔で予防。一層の反省と万全の対策を痛感しているところであります。

こうしたことを背景として、特に近年畜産経営の集団化、大規模化につれての家畜衛生について、その考え方を普及し、安定した畜産経営を築く必要に迫られているのであります。

そこで全国的に展開される運動と呼び、今年も「家畜衛生週間」を実施することになり家畜衛生の自己防衛のために、県下一円に啓蒙運動を展開することになりました。

昨年に続いて、今年も上記の団体の後援のもとに岡山県と岡山県畜産会が共催で、関係業者の協賛を得て次のことを実施することに

- ① 本週間にN H K並びに民間放送の電波を活用して家畜衛生の放送
 - ② 岡山県家畜保健衛生普及推進大会を本週間の皮切りの日に岡山市で次の予定で開催します。
 - 日時 八月二一日午前十時半
 - 場所 岡山市古京「三光荘」
 - 講演 家畜の集団衛生について (講師) 東京農業大学教授 農博 川島秀雄先生
 - その他 (1) 衛生功労者の表彰 (2) 家畜衛生映画の上映 (3) 衛生関係資料の展示
 - ③ 衛生関係資料の展示
 - ④ その他、地区の実情にあつた
- 以上の計画により、県下挙げての家畜衛生思想の啓蒙普及運動を展開することになっておりますので、これを機会に、家畜の衛生環境をもう一度見直し、大所高所にたつての知識は八月二一日に岡山市で開催される岡山県家畜保健衛生普及推進大会に参加し、また具体的問題については地区家畜保健衛生普及推進協議会の計画する諸行事を、積極的にご利用のうえ、明日への畜産経営の基礎作りと、恐ろしい家畜の病気が再び我々の経営をおびやかすようなことにならないように日常の努力を払いたいものです。



養鶏試験場だより

夏期の鶏

飼養管理

一、育雛管理

ヒナの育成中には僅かな飼養管理の不注意がいろいろな障害をおこすことになり、特にこれから向う梅雨期から夏にかけての時期は、高温多湿により、食欲は衰え、病気に對する抵抗力も弱ま

てきます。一方、いろいろな病原体や害虫がはびこり易くなる時期ですから、いろいろな病気が発生します。また飼料が変質し易くなるので、悪い条件も多くあります。そこでこの時期の飼養管理にあつて「清潔」「通風」「乾燥」に重点をおく必要があります。

梅雨期を迎えると、ケージなどの立体管理の場合は、糞受板や糞床は努めて清掃し、殺虫剤や消毒薬の散布を励行し、

空気の汚れや病原体の繁殖、蛆の発生などを防ぐ必要があります。平飼いであれば、床が湿り勝ちですから、窓はできるだけ開放とし、通風をよくするとともに敷糞は随時補給するか、新しいものに取替えてやり、床の乾燥を促すようにします。

また、この時期には飼料が変質し易くなり、飼料の買い溜めは慎しみ、保管は下木を敷いて、通風と乾燥をはかります。

一方、ヒナは食欲が衰え、発育も鈍くなり勝ちですから、栄養のバランスがとれた、良質の飼料を与えることが大切です。飲水は新鮮な冷水を豊富に与えるように心がけます。

つぎに、予防衛生行事を定期的に励行し、病気の発生を未然に防ぐようにします。例えば、コクシジウム症、ロイコチトゾーン病に對する予防薬の投与、内外寄生虫の駆除、ニューカッスル、鶏痘などの予防注射、接種などです。

当場の例を表1にあげてみました。次に幼・中雛別に要点を述べてみましょう。

(一) 幼雛

養鶏規模の大型化で、年中餌付けが行なわれるようになりました。以前はこの時期の餌付けは避けていましたが、やり方によつては案外有利です。

さて、気温が高いので、給温期間は一日も四日もみれば十分です。育雛器内と器外との温度差が少ないので、換気不良になり易く、湿度が高いのでヒナがむれる危険がありますから、この時期の給温は、保温の他に器内の換気と乾燥を役立てるようになります。

密飼いは、換気不良を助長し、また採食や運動が十分できないために、成長は悪く、飼料効率も悪くなります。また尻つきなどの悪癖が出やすくなるばかりでなく、呼吸器病が発生し易く、育成率の低下を招くことになり、密飼

表1 主な予防衛生行事

行 事	実 施 時 期	備 考	
ニューカッスル病予防注射	第1回	21日令	県内に発生している場合は初生時に注射
	第2回	60日令	
	第3回	180日令	
	以後	3~6カ月間隔	
鶏痘予防接種	第1回	初生時	2月~5月餌付けのヒナは第1回28日令第2回90日令
	第2回	28日令	
コクシジウム症予防	餌付け	90日令前後	
内外寄生虫駆除	平飼	2日毎	
	立体	90~120日令	
ロイコチトゾーン病予防	晩春~秋期	ビタミン添加飼料	

表2 鶏への暑さの影響

産 卵 率	気 温	兼用種減退
産 卵 重	32.5°C	兼用種減退
産 卵 質	37.7	白レグ
食 欲	26.6	小さくなる
飲 水	37.7	21°Cの時の89%
	26.6	薄くなる
	37.7	21°Cの時の42%
	37.7	21°Cの時の35%増
	26.6	便は水様化し始める

二、産卵鶏の管理

梅雨期から夏期にかけて、産卵鶏管理の考え方は、産卵鶏の産卵低下を最小限に防ぎながら、卵価の高くなる夏から秋に十分な産卵が出来るように、鶏の体力を維持させ、この時期は鶏にとつて環境条件がよくないので、無理な飼養管理や手ぬかりのないように注意しなくてはなりません。

表2は暑さと産卵との関係を示したものでありますが、高温多湿を次のような方法で改善してやりましょう。

(一) 飼育環境の改善

乾 燥

- (イ) 鶏舎の周囲の庇蔭樹は適当に枝打ちをして通風をよくする。
- (ロ) 鶏舎は開放的にし、屋根からの換気もはかる。
- (ハ) 鶏糞からの水分蒸発を少なくするために、早めに除糞する。
- (ニ) 軟水便対策をたてる(本誌六月号参照)。

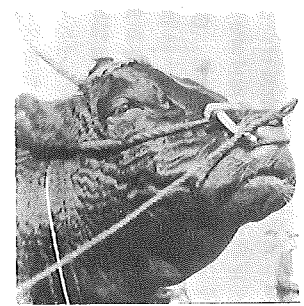
- (ホ) 鶏舎周辺の排水をよくし、舎内に水が入ったり、床が湿らないようにする。
- (ヘ) 雨が舎内に入らないようにする。
- (ト) 平飼いで、敷糞の補給または入れ替えを行ない、時々反転する。
- (チ) 高温防止
空気が停滞しないように通風をよくする。
- (リ) 屋根からの熱を防ぐため、屋根に断熱剤を塗るとか、屋根裏に断熱材を使用する。
- (ル) 舎内への直射日光、特に西日を防ぐため日覆を設置する。
- (レ) 輻射熱を防ぐため、日よけをする。

(二) 飼料対策

表2のように高温になると、飼料摂取量は減少します。それに多湿が重なるとますます減少します。したがって、健康を維持し、産卵させるためには、摂取量が増加するような給与法をとらねばいけません。

飼料の品質

この時期は、飼料は変質を起こし易く、ビタミンなども早く効力を失うので、長時間貯蔵しない新しい飼料を与えます。飼料の配合割合は、特に変更する必要はありませんが、できれば摂取量が少なく、かつたんぱく質、蛋白質、エネルギーともに高い飼料を与えます。



いにならないように、なるべく薄飼いに心掛け、発育に応じた適正な床面積を与えます。

立体飼いの場合は、廃温用、中雛用ケージへの移動によるストレスから、発育が鈍ったり、病気に對する抵抗力が低下しますから、移動の前後に、ビタミン、抗生物質などを投与してやります。

(二) 中雛

春に餌付けしたヒナは、梅雨期中雛の通風と換気には特に気を配り、除糞は頻繁にし、平飼いであれば敷糞を取り替

飼料の給与は涼しい時間に、十分摂取させるように、できるだけ朝早く与えます。卵殻は不良になり易いので、かきからは不断給与してやります。

(三) 衛生対策

この時期は、蚊、ニワトリヌカカ、ワクモ、シラミ、ハエなどの害虫類の発生が盛んになるので、これらの駆除に努めます。鶏舎周辺の雑草は刈りとり通風をよくし、水溜りをなくします。ワクモは止り木の下や板の割れ目、隙間、糞受板などに生棲しますから、殺虫剤を散布します。

シラミはプレミアムマラソン二〇〇％乳剤の五〇〜一〇〇倍液を鶏に直接散布してやります。蛔虫の駆除も忘れてはいけません。ロイコトゾーン予防のためには、ピリメタミン添加飼料を給与します。

とにか、梅雨期から夏にかけては、高温多湿のため鶏は弱り、病気に対する抵抗力も低下しておりますから、病気の予防には十分注意して下さい。予想される病気は、前もって対策をたて、衛生的な環境を作つてやるのが大切で、病気を発生してからは遅いこととなります。(技師 上野満弘)

和牛試験場だより

暑さに向つての飼養管理メモ

一、暑さから牛を

まもるための管理

七月中旬から八月下旬までは、年間を通じて最も暑い時期である。家畜のなかでも和牛は暑熱には強いほうであるが、栄養並びに体力の消耗など、かなり暑さの影響を受けやすく特に、肥育中の和牛

の増体には相当こたえてくるものであるから次のことに注意しよう。(1)、暑熱時における牛舎内の通風、換気に気をつけることは常識であるが、この場合の通風は、袋風では涼しくならない。必ず風の入口と出口があつて吹きとおる通風でなくてはならない。

二、体力を防ぐための対策

(2)、瓦葺牛舎は、瓦のホテリで、舎内温度を著しく高めるため、水の豊富な地帯では、瓦屋根に撒水して舎内温度を下げるのも一方法である。和牛試験場では、瓦屋根の棟に、水道から導いたビニールホース(ホースの敷き所は小穴をあける)を取りつけ、炎天の日の午後一時頃から約三時間程度屋根に撒水した結果、牛舎内外の気温差二℃前後で、食欲その他、牛の健康状態もかなりよかつた。なお、屋根の上にムシロを敷き撒水すると長時間持続し、一層効果がある。

暑熱時には、食欲が振わず、体の異常を招き、体力を消耗するのが常である。これらの消耗を防ぎつつ、夏の暑熱時をどのように過すかが和牛飼育のコツである。

(1) 先ず食塩を十分与えること

暑熱時には発汗量が多く、汗とともに多量の塩分(特にナトリウム)が体外に排出される。また、一面には、夏は青草の摂取が多いために、青草中の、加里分を体内に多く摂取すると、代謝的にナトリウム(食塩の成分)が体外に排出されるために、塩分の絶対量が不足する結果となる。

以上二点の理由から見て、夏季は食塩を十分に与えるべきである。そのために、放牧場、牛舎内には必ず鉱塩ないしは食塩を常置すること。

(3)、農山村に見られる深厩式箱厩は、敷料の堆積のため、酸酵熱により蒸し暑く、アンモニアガス発生のため、健康状態や、増体成績にかなりの悪影響がある。従つて、これら箱厩は、ツナギ式又は、スタンション式に簡易改造して、これら悪感作から牛をまもることが大切である。

(2) 飲水場を設け冷水を十分飲めるように設備すること。

(4)、牛舎内には、寒暖計や湿度計を、必ず備えること。牛の最適の気温は、一五℃〜一七℃、湿度は、五〇〜六〇%である。

発汗によつて多量の水分が体外に排出されるために、塩分不足と相俟つて著しく疲労するのである。水量の豊富な山間部等では、冷たい新鮮な水が、絶えず流動する飲水場(又はウォーターカップ)

を設け、自由に飲めるように心掛けること。

(3) 放牧場には必ず待避所を設けること。

太陽の直射日光の照射に起因する日射病、及びアブ、サンバイ等の吸血昆虫から牛をまもるために、放牧場内に待避所及び避難林を必ず設けること。

三カ月頃から、母牛とは別の飼槽で、子牛に適した配合飼料を与え別飼いする。放牧中であれば、放牧場内に子牛が出入りできる囲いの中で、濃厚飼料を与える。いわゆるクリーブフイーディング方式により栄養補給をすることが良い。別飼いの飼料の配合例は、次のとおり

区分	給与量	
	雌	雄
生後2~3カ月	0.6 Kg	0.7 Kg
3~4	0.8	0.9
4~5	1.0	1.1
5~6	1.2	1.4

配合割合(重量)
麩30, ひき割大麦20, 大豆粕25
ひき割とうもろこし25, コロイカル2
含塩1.5

三、暑熱時の子牛の管理

和牛は、暑さには比較的抵抗力があるが、子牛には十分注意する必要がある。暑さのため、母牛の体力が消耗するに従いがい、泌乳量が低下するから子牛に栄養の補給が必要である。子牛は、生後二

両者とも、暑さによる体温の調節機能の変調により起る病気で、原因は、直射日光の照射(日射病)及び温度、湿度が高くなることによつて起る。前述の事項をまもり、原因を排除すること。

(2) 蹄間腐爛(マタクサレ)

牛房特に深厩の中に閉じこめておくと、糞尿、ガス、温度のため、蹄間が汚染し、ついに腐る病気である。牛舎内を清掃するとともに、時々、流れ川等に川入れして、蹄間を清潔にすることが大切である。

(3) ビロプラズマ病

この病気は、放牧地帯に多く、特に放牧中夏から初秋にかけて多く、ダニの媒介によつて発生する。栄養及び体力のある牛は比較的抵抗力があるようである。

春山の放牧では、特に抵抗力の弱い子牛がダニの被害を受け易い。予防法は前述(3)のとおり、また、蚊、アブ、サンバイ等の吸血による被害は甚大である。放牧牛は、適確なる予防法はないが、舎内での予防として、蛍光灯式捕虫機を設置すればかなりの効果がある。

(技師 高尾 登)

四、暑熱時の衛生管理



暑熱時の気温の感作と、体力の消耗により、いろいろな病気が起り易い。主な病気とこれの管理は次のとおりである。

(1) 熱射病、日射病

乳牛は小型化している

松垣繁光博士
講演要旨より

最近のホ種乳牛は南方型で成熟の早い小型のものが多くなつてきている。ところが海外から輸入される種雄牛は北方型で大型のものが多く、難産になる例が多い。乳牛の改良地帯は別として、実用牛は大型でなくても夏に強い方がよい。小型で黒勝ちの牛は暑さに強い。若牛の種付けはなるべく早くする。一四カ月、三七五kgなら大丈夫である。さけるよう配慮する。

牛の流感を予防しましょう!!

牛の流行性感冒は8月より11月の間に大流行が予想されます。特に昨年は北九州および中国地方西部に流行し、過去における本病発生の経緯からみて、本年は岡山県にも大流行のおそれがあるので、次の事項を守って本病の侵入防止に万全の措置をとりましょう。

牛の流行性感冒とは

牛の流行性感冒には次の2つの型があり、別々に又は同時に流行します。

★牛流感(牛流行熱)

- 本病は牛流感北研毒ウイルスによって感染し、大流行するが普通2～3日の経過で快復する。
- 本病に感染すると、急に食欲反芻がなくなり、42℃前後の高熱を出し呼吸が早くなる。又関節が腫れ歩様が定まらず伏臥するようになる。妊娠中期を越したものは死産又は流産することがある。

★牛流感(家衛試型)

- 本病は牛流感家衛試毒ウイルスによって感染し、牛流行熱とほぼ同一の地域に混合又は随伴して流行し、病状は重く、へい死率が高い。
- 本病に感染すると、初期より食欲反芻はなくなり、高熱が下りかけた時期に咽喉頭麻痺が起る。即ち消化器系、呼吸器系が極度に侵され、摂取した飼料や飲水は鼻腔を通じて鼻から逆出し、時には肺に入ってへい死の原因となる。

牛の流行性感冒の侵入を防止するには

★予防注射の徹底を

- 予防注射には北研毒と家衛試毒の2つの型がありますが、症状の重い、へい死率の高い家衛試毒の予防注射を「家畜保健衛生所」で行っていますから早く申出て注射を受けて下さい。
- 予防注射は7月中には完了する様にしましょう。(注射必要経費1頭 150円)

★環境の改善と定期的に消毒を

- 畜舎内外はたえず清掃し、通風、換気、乾燥等に注意しましょう。
- 畜舎内は毎月消毒を行ないましょう。

★吸血昆虫の防除を

- 蚊、蠅、虻、ダニ等の吸血昆虫を防除して、害虫から家畜を守りましょう。吸血昆虫も伝染病を媒介します。

★牛の健康管理を

- 飼料や気温(昼夜の気温の変化等)に注意して、牛の健康管理に心掛けましょう。
- 内部寄生虫は早く駆除しましょう。
- 日射病、熱射病にならないよう。又、過労やむりな管理は止めましょう。
- 食欲や反芻は? 体温は? 糞の状態は? 咳や鼻汁はないか? 注意しましょう。

★発生地域の交流や家畜の集合はさげましょう

- 発生が予想される8月より11月までは、特に他地域との交流、視察、あるいは家畜の集合等は極力さげましょう。

牛の流行性感冒が発生した時には

★早期発見と届出を

- 流感様の病気が出たら、最寄りの「家畜保健衛生所」に届出て、早く病性を確めて下さい。

★患者の隔離と畜舎等の消毒を

- 患者が出た場合は「家畜防疫員」の指示に従って迅速に、適確に、処置しましょう。
- 患者の隔離や畜舎等の消毒は完全に実施して、他の牛に感染させないようにしましょう。

★治療は……

- 患者は専門の獣医師の治療を受けましょう。
- 治療は出来るだけ初期に行ない、損害を最少限に止めましょう。

イタリアンライグラスの 跡地の水稲の栽培について

専門技術員 栗山光春

一般にイタリアンライグラスを栽培している農家では余り問題にされなくなっているが、裏小作に提供した裏作放棄農家において重視され、その対策が望まれている現状である。特に今後各地域において、これら裏作放棄農家田を活用して、飼料生産を大規模に行なおうとする気運が出ているので、これに対処するため、その対策を樹てられたのである。

- 一、跡地の耕起作業に困難性がある。
- 二、水稲苗の活着不良など初期の生育に障害がある。
- 三、残根分解が起り有害ガスによつて根腐病にかかる。
- 四、病虫害が多発する傾向がある。

これらの問題は水田土壌の土質やイタリアンの栽培技術、水稲の栽培技術、水利の慣行などによつて、その発生の度合に差があることは当然である。

この対策としての試験成績等も僅少で、いづれについても、気象条件、土質によ

イタリアン跡 地の水稲栽培 技術の要約

一、移植の場合

- (一)……イタリアンライグラスに対しては十分な施肥を行なうこと。
- 注 裏小作の場合に棄て作りのな栽培をして、その跡地の水稲生育不良から

- 嫌忌される結果となるので、借主は十分注意することが必要である。
- (二)……イタリアンライグラスの珪酸吸収量も多いので、珪カルを普通施用量の三〇～五〇%増とすること。
 - (三)……石灰窒素を一〇a当り一〇～二〇kgをイタリアン最終刈取二～三日後再生し始めた上に散布する。この場合イタリアンへの施肥の多少によつて加減する。
 - (四)……その後直ちに全面を浅耕する。耕深は五～一二cmとする。
 - (五)……かん水まで一～二週間放置する。とくに南部及び排水不良田は、この期間を長くする程良い。
 - (六)……本田への基肥は、稲作改善指導指針(四二年一月)による。特に最北部でイタリアンに対する施肥不十分の場合は、基肥のうち窒素二～三kgを代播前、あるいは田植時にうわぶり(表層施肥)を考える必要がある。これは初期生育を旺盛にするためである。
 - (七)……活着後有効分けつ期までの間の水管理は、湿田や水温が高い水田で、残根の分解によりガスの発生が著しいため根腐れが起きた場合は、軽度の間断かんがいを行なう。もしそれが不能の場合は、かけ流しかんがいを行なう。北部の冷水田では根腐れの心配はない。
 - (八)……中干しは、普通田より幾分強目に行なつたがよい。北部では中干し時期が梅雨時と重複し易いが、この場合でもかん水は中止し、つとめて降雨の排水に努

二、無耕起穴播直播の場合

- (一)……イタリアン刈株の枯殺をするため、殺草剤を使用するが、水稲への被害を考慮した場合、殺草剤は中間型のパラコート(乳剤)一〇a当り三〇〇ccを水一〇〇～一二〇lに稀釈して、最終刈取後再生開始時(二～三日後)に散布する。
- (二)……耕起は行なわない。
- (三)……播種は殺草剤散布当日行つてよい。播種時に土壌が乾燥している場合は、走り水程度に水を入れて軟かくした後、播種機に重石をのせて播種するとよい。播穴は焼酎殻で被覆する。
- (本稿は栗山専技の発表せられたものを編集部において抜粋要約したものである。)

乳牛一頭当りは増加
牛乳一〇〇kg当りは
僅かに低下

(四十一年の牛乳生産費)
表のとおり、搾乳牛一頭当りの第二次生産費は飼料費が上つたため一八五、六一八円となり、前年に比べ二五、六九二円(一五%)増となった。しかし乳脂率三・二%換算の生乳一〇〇kg当りの第二次生産費は三、三四五円と、前年の三、五〇一円より僅かに減少している。これは搾乳牛一頭当りの産乳量が泌乳能力の高い牛の導入、飼料の調理給与の改善などにより著しく増加(前年四、五七七kg、四十一年五、五九九kg)したこと、更に労働時間の短縮による生産性の向上などもあつて、労賃、諸物価の上昇にもかかわらず一五六円(四%)減少している。
主な費目の費用合計に占める割合は、飼料費が六四%、飼料費中購入が六三%、他が三七%と最も大きく、ついで飼育労働費が二三%、乳牛償却費が六%となり、この三費目で九三%を占めている。全国平均値により飼養頭数規模別に第二次生産費をみると、七、九頭飼養を最低に両端に向うに従つて増加している。
(四二・五・一五発表)

牛乳生産費

搾乳牛1年	飼育労働費	飼料費		乳牛償却費	その他	費用合計	第2次生産費	
		計	うち購入					
岡山平均	40年	43,252円	104,220円	61,758円	13,130円	16,181円	176,783円	160,226円
	41年	46,646	129,679	82,201	11,841	15,944	204,110	185,918
牛乳100キログラム当り	岡山平均	944	2,277	1,349	287	355	3,863	3,501
	41年	839	2,333	1,479	213	387	3,672	3,345
全国平均(飼養頭数規模)	41年平均	946	2,192	1,363	324	382	3,844	3,570
	1頭	1,416	2,577	1,426	338	431	4,762	4,215
	2	1,158	2,355	1,354	355	405	4,273	3,935
	3	1,018	2,239	1,364	305	371	3,933	3,652
	4	897	2,251	1,411	349	374	3,871	3,591
	5~6	840	2,160	1,384	328	381	3,709	3,445
	7~9	706	2,017	1,369	315	339	3,377	3,197
	10~14	708	2,094	1,540	308	352	3,462	3,327
	15~19	760	2,052	1,683	355	351	3,518	3,479
	20~29	713	2,238	1,923	344	324	3,619	3,624
30~	736	2,310	2,100	319	292	3,657	3,719	

(注) 第2次生産費=費用合計-副産物価額+地代+資本利子

県下の食肉流通

(四十二年四月の状況)

一、豚 肉
四月の県内屠殺は七、六五八頭で前年同月の二一八%に当る。これに県外出荷を加えると一万頭以上になる。しかし県内出荷のものは過半数の四、一二〇頭が事業団買上げである。価格も事業団買上げ価格、枝肉一kg当り上物二九五円である。

二、肉 牛
飼養頭数の減少から肉牛の出荷も減少し、非常に高値を続けたが(昨年十二月枝肉一kg当り平均七七〇円)、最近は一ズンオフと高値で消費者に敬遠されたためか、シリ安状態(四月枝肉一kg当り六四二円)である。しかし前年同月五七五円に比べると一・二%六七円高い。

四月の成牛屠殺頭数は七七〇頭で、前年同月より二〇三頭(二一%)減であつた。しかしめすの屠殺は二一五頭で、一五六頭(四二%)減と大巾に減少しており、繁殖力は入れられてきていることがうかがえる。乳牛の成牛は二三三頭で一六頭(八%)増であるが、このうち雄肥育牛が三七頭含まれており、前年より大きな違いである。また乳牛子牛の屠殺は二五三頭で二二頭(九二%)も増加しており、このうち肥育された雄子牛が六頭入つていた。(四二・五・二五発表)

肉豚生産費前年度
並、子豚僅か増

1 肥育豚生産費の概要

四十一年肥育豚一頭当り第二次生産費は、飼料費、素畜費(素豚の大型化)の上昇はあつたが、他面労働時間の短縮による労働費の減少などもあつて、結果的には一七、三八〇円とほぼ前年並であつた。また生体一〇〇kg当り第二次生産費は、前年より販売時生体重の増加などの影響で二〇、一八八円となり、前年より九〇九円(約四%)の減少となつた。
肥育豚一頭当り粗収益、家族労働報酬は前年に比べ微増であつたが、一日当り家族労働報酬は労働時間の減少により九八六円と前年に比べ二二五円(約三〇%)上昇した。

2 子豚生産費調査の概要

子豚一頭当り第二次生産費は四、三六六円となり、前年より一〇九円増であつた。粗収益は子豚価格の上昇により五、七〇二円となり、前年より二七五円(五増)増で、結果純収益は一、〇五六円(一五七増)増、家族労働報酬は一、六二七円(一四六増)、一〇%増となり、一日当り家族労働報酬は労働時間の短縮により二、二四四円(四五〇増、二五%増)となつた。
(四二・五・二二発表)

肥育豚および子豚生産費

	肥 育 豚				子 豚	
	41年		40年		41年	40年
	1頭当り	100kg当り	1頭当り	100kg当り	1頭当り	1頭当り
飼 育 勞 働 費	2,870	3,334	2,996	3,642	571	582
飼 料 費	7,308	8,489	6,916	8,404	2,674	2,494
うち購入	6,841	7,946	6,501	7,905	2,357	2,305
母豚償却費又は素豚費	6,270	7,282	6,155	7,483	516	644
そ の 他 費 用	453	526	688	841	547	494
費 用 合 計	16,901	19,631	16,755	20,370	4,308	4,214
第 2 次 生 産 費	17,380	20,188	17,353	21,097	4,366	4,257

(注) 第2次生産費=費用合計-副産物価額+資本利子+地代

肥育豚および子豚の家族労働報酬(1頭当り)

	肥 育 牛			子 豚		
	41年岡山	40年岡山	41年全国	41年岡山	40年岡山	41年全国
粗 収 益(含副産物)	17,318	17,020	19,006	5,702	5,427	5,613
総 投 下 費 用	17,380	17,353	19,063	4,646	4,528	5,178
純 収 益	△ 62	△ 333	△ 57	1,056	899	435
家 族 勞 働 報 酬	2,661	2,595	1,857	1,627	1,481	1,298
1日当り家族労働報酬	986	763	844	2,244	1,794	1,331

(注) 総投下費用=費用合計+地代+資本利子

純収益と家族労働報酬(搾乳牛1年1頭当り)

		粗 収 益	総 投 下 費 用	純 収 益	家 族 勞 働 報 酬	1日当り 家族労働報酬
		(含副産物)				
岡 山	40年	187,115円	189,053円	△ 1,938円	41,297円	680円
	41年	228,478	218,669	9,809	56,353	1,000
全 国	41年	200,614	200,382	232	45,056	837

三、第一胃の消化機構

(一) 微生物の作用

胃内の微生物は、セルロース醱酵細菌群、澱粉および糖醱酵細菌群、乳酸および...

乳牛に糖や澱粉等分解が早い濃厚飼料を多給すると、乳酸の産生が極端にさか...

(二) 微生物が産生する醱酵産物

第一胃内の微生物は、飼料の質に応じた、それぞれの勢力が質的にまた量的に...

(三) 異常醱酵による障害

酢酸、プロピオン酸、酪酸の産生比率は、牛の健康を維持するのに関係が深く...

四、第一胃の消化機構にあつた牛の飼い方

第一胃の醱酵作用が、常に同じように行われるように飼養することが、良い牛...

(一) 飼料給与の要点

年間を通じて、できるだけ質と量が極端に変わらないよう、いわゆる通年飼...

頃、つぎの違つた飼料で恒常性がこわされてしまうことになる。

イ マメ科牧草が、栄養成分が多いからといって与えすぎないようにし、イネ科牧草も確保して給与すること。

ウ 青刈粗飼料を中心とした多汁質飼料を給与する時期には、イナワラを細かく切らずに長いまま自由に与え、第一胃内での醱酵が恒常性を維持するように調整することである。

エ 高蛋白飼料の濃厚飼料のみを多給することは、不適当な場合が多い。濃厚飼料を多給すると、第一胃内のPHが五・〇以下になつて、微生物による本来の消化が行われなくなる。

オ 粗飼料を多給して満腹感を与え、反すうがよく行われるようにすること、粗飼料と濃厚飼料の比率は、飼料の効率に影響する。飼料の効率をよくするために、濃厚飼料の給与量を生草換算粗飼料の八〇以下にするといわれて...

カ 給与飼料をかえる場合は、七〜一〇日をかけてじよじよに行い、飼料の急変、濃厚飼料の急変などはとくに慎重にしなければならぬ。

キ 硝酸塩、硫酸塩を多量にふくむ青刈イネ科牧草の単一多給は、無機物の代謝を障害することがあるので、青刈粗飼料は、単一給与はさけたほうがよい。

ク 給与する飼料は、酸性飼料にかたよらないようにし、濃厚飼料の多くは酸性であるが、アルカリ性飼料、すなわち、青草、野草、干草などの粗飼料の給与を心がけるとよい。

(二) 粗飼料を多く給与する必要性 粗飼料を給与する必要性は、上述のほかに、粗飼料中に含まれているナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウムなどの無機物が、酸と塩基の平衡を保ち、第一胃内の微生物の増殖を旺盛にし、醱酵消化作用が正常に行われる。ほか牛の体液を弱酸性に保つて、健康を維持するのに役立つからである。

このように、乳牛の消化機能は複雑であり、神秘的に行われているが、体験と努力から得た飼養管理技術の未熟な飼養者にあつては、飼料給与事情のみでなく、人為的な管理の失宜が無意識のうちに進行して、発育の障害、不受胎、泌乳の減退、疾病の発生などがみられ、酪農経営の損益を左右する誘因となつてい...

次号は衛生特集!

八月二十一日から二十七日までの一週間、昨年より引き続き開かれる「家畜衛生週刊」に関連して、本誌の内容も衛生特集号として発行します。

て、酪酸が酢酸、プロピオン酸の産生比率を大きく上まわると、大量の酪酸が胃壁から吸収されるが、胃壁を通過するさいにケトン体となり、アセトンを生ずる。このアセトンは、牛には有毒とされており、中毒をおこして食餌性のケトージスを発症する。

酪酸菌はPH七・〇〜八・〇でさかんに活躍するが、酸性の環境では弱いので、アンモニヤの産生がさかんにならないよう蛋白質などの窒素化合物の給与が適量をこえないように給与して、第一胃内の恒常性を破らないようにすることが必要である。飼料中の蛋白質は、第一胃内で微生物体蛋白質に転換されるが、蛋白質飼料を過度に多給すると、微生物はアンモニヤまで分解してアンモニヤの過剰産生がおこり、微生物体蛋白質の合成がともなわずに、ついでには、尿素飼料過給時と同様にアンモニヤ中毒をおこすことがある。

第一胃内では、牛の健康を維持するために必要なビタミンA、B、D、Eは合成されないから、飼料によつて与えなければならぬ。この点、良質の草類はビタミンEを除いて、A、B、Dの良い給源である。しかし、クローバーなどの若葉を飽食させたときなどによく鼓脹症をおこすが、この原因は、若葉に含まれているサポニン様物質が、第一胃内の醱酵ガスによつて細い泡となり、食道を通じて外に出にくくなるからである。

“酪農・養鶏機ならおまかせ下さい”

農業機械ならなんでも揃う店

岡山市柳町一丁目一の一七

小六農機株式会社

TEL 岡山②4 0 3 0 7 (代) 岡山市外専用 1 1 0 営業所 高梁・金川・児島

本誌の予約申込要領

誌代 一部 五十円（送料共）
年間予約約六百円（送料共）
但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービス価格とす。

集団申込の特典

十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に割引きます。但しこの場合は一括購読です。個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先

岡山市桑田町一丁目二番地
社団法人岡山県畜産会指導課
（電話）岡山②18575番
（口座番号）岡山八五七五番

暑中御見舞申し上げます！

岡山県乳質改善協議会

会長 惣津律士

岡山県
人工授精師
協会

会長 惣津律士

山陽酪農業協同組合

組合長理事 今井剛

笠岡市絵師156
電話（笠岡）2-2496

岡山市大供西之町491

電話（22）2760番

大和印刷所

編集室から

◎空梅雨で水不足の被害が大きくなつて、雨を望む声が大きい。雨が多ければ小麦に被害が出、空梅雨になれば水不足で嘆く。お天気がかせの日本農業ではやむを得ないとしても、反面ではダムを造るといえば反対をして、水を流してしまつておいて水不足を嘆くのであるから困つたことである。事情はあるにしても、水を溜めて利用することを考えなければ、百年の大計はできない。

計画が必要である。自然環境を考えながら経営を行いたいものである。◎そろそろ牛乳不足の声を聞く。消費者は牛乳の価格が高いといながら、不足して来ると高い乳でも飲んでい。暑さで乳の出は少なくなつていのに消費は伸びる一方である。低物価政策も必要であるが、所得の増加を考えないで、生産者負担での低物価は感心しない。テレビの乳価問題の座談会は何時も消費者とメーカーのみで、生産者が加わつたことがない。生産原価のよく判らないものは何時の間にか値上げされていのに、生産者の間には知られているばかりに、牛乳の値上げは何時も問題にされるのである。酪農家の投資額や経営内容の検討もほしい

映画で勉強しよう

社団法人岡山県畜産会では左記の畜産映画フィルムを備え、一般に貸出しを行つております。ご希望の方は畜産会までご連絡下さい。なお、フィルムの消耗料として、一本一回の貸出しにつき一、〇〇〇円を徴収いたします。

フィルム名

- ◇酪農 酪農経営の改善、乳牛のエサと繁殖障害
- ◇養鶏 成功する養鶏経営、養鶏経営の改善
- ◇草 上手な牧草の作り方と利用、水田に草を作る人々

申込先 岡山市桑田町一丁目二番地
社団法人岡山県畜産会
電話（岡山）二二一八五七五

ものである。◎子牛の価格安定対策が考えられている。大蔵省は豚肉、鶏卵で弱つたため、子牛の価格安定対策は見送つていようである。反面肉不足のためには大量の肉が輸入されている現状である。子牛生産経営は畜産の中で最も収入の低い部門である。価格の安定を図らないで、畜産農家の負担で生産を奨励してみても、かけ声ばかりに終る可能性が高い。何か抜本的な施策がほしいものである。◎本会の行事として八月は「家畜の衛生週間」が行われる。一番問題の多い夏場にこの催を持つて来たことに、特にご注意を頂きたい。今年は特に各種の伝染病の発生が予想される年です。関係者には種々御無理をお願いしますが、よろしくお願いいたします。

第十八巻 第七号

昭和四十二年七月一日 発行

発行人 惣津律士

編集人 蔵知毅

発行所 岡山市桑田町一丁目二番地
岡山県畜産会

電話岡山②八五七五番
振替 岡山八五七五番

印刷所 岡山市内山下七七
ふじや高速印刷
電話代表④四九五一番